

平成30年度 学校評価（評価結果報告）

島根県立浜田商業高等学校

評価計画			自己評価			学校関係者評価			
評価項目	評価領域	担当	本年度の目標	目標達成のための方策	評価	達成状況	改善策	評価	コメント
学習活動の充実	基礎学力の定着	教務 進路指導 学年会	わかるたのしさ（基礎学力の定着）を実感させ、自ら学ぶ力を身に付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>学び直し教材を有効活用</li> <li>家庭学習定着のための適切な課題や宿題の奨励</li> <li>各種小テストでの基礎学力の向上</li> <li>家庭学習時間調査の確実な実施</li> <li>興味・関心を促進する学習教材選定</li> </ul>	B	マナトレの活用により、中学校での学習内容の振り返り・確認を行い、基礎学力の向上に繋がった。教科ごとに課題の精選と提出確認を徹底した。定期試験前や長期休業中を利用して補習を行い、生徒を支援した。	今後も宿題・課題の精査とともに、苦手意識のある生徒に対して、授業中や試験前の支援を更に充実していく。	B	マナトレの活用で、学力向上の結果が表れているようである。専門的な知識は時間をかけて身に付けて欲しい。大学への積極的な受験体制の整備も必要ではないか。
			地域のニーズに応じた教科指導の推進と新しい教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業互見や授業アンケートにより、わかりやすい授業への改善</li> <li>授業時数の確保と理解不十分な生徒への適切な支援</li> <li>シラバスの有効活用</li> <li>新教育課程編成に向けた情報収集</li> </ul>	B	公開授業・授業アンケートともに毎学期実施し、他教科の授業を見学することで参考になることも多く、授業力向上への意識付けができた。10月からのICT機器、12月からのタブレット導入で、授業での利用頻度が高まり、まず使ってみる、という事例を公開授業で知っていただき有効であった。	新学習指導要領の教科別説明会を夏に控えている。校外での研修で得たものを伝達する場を設け、互いの情報交換によって授業改善していきたい。公開授業・授業アンケートは引き続き毎学期行っていく。		成績優秀者を学習指導リーダーとして、自分たちで教え合うシステムを設けたらどうか。
明るく魅力ある学校づくり	さわやか浜商生の育成	生徒	さわやかな身だしなみを徹底する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員による登校指導</li> <li>定期的な身だしなみ指導</li> <li>日常的な出会い指導</li> </ul>	B	毎回の身だしなみ指導で8割以上の合格者を出した。一年間をとおして、朝早くから全教員で登校指導を行い、挨拶や声かけの継続的な指導を行った。	さわやか浜商生として、生徒会を中心に全校で挨拶や身だしなみを日頃からきちんとしていくように指導したい。	B	いつも元気よく、立ち止まって挨拶してくれて気持ちが良い。一部の女子生徒の髪の毛の乱れが気になるが、全体的には良い。
			主体的な生徒会活動、部活動を支援する	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒会の主体的活動への支援</li> <li>部活動に対する意識の向上と支援</li> </ul>	A	生徒会が主体的に積極的に取り組むように支援した。これからも学校行事、生徒会活動、部活動の支援に全教職員で取り組む。	生徒会が自主的・積極的に呼びかけができるように支援したい。		廊下の隅の埃に気がつき、掃除が実践できるような人になって欲しい。
	人間力の向上	商業	社会の変化に対応できる適応力をもった人材を育成する	<ul style="list-style-type: none"> <li>新カリキュラム運営に向けたPDC Aの確立</li> <li>生徒向け研修・ビジネスマナー指導の実施</li> <li>他人を思いやる心の育成</li> </ul>	B	簿記関連授業および情報処理関連授業にできるだけ担当者の複数配置を行い、丁寧な授業を心がけるとともに、多くの教員が目を見てひとりひとりを観察し、必要な支援を行った。	新入生に対して浜田商業生徒としての意識と商業教育（職業教育）に対する正しい考え方をレクチャーするため、オリエンテーションに工夫をこらす。	B	浜商学びのWeek事業のような取り組みを積極的に行うことも人間力の向上に繋がる。PDCAの考え方は大切で、振り返りができ、意識の向上が図られる。
	創造力のある生徒の育成	総務	生徒の読書意欲の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝読書の支援</li> <li>利用しやすい図書館づくり</li> <li>図書館だより等の定期的な発行</li> </ul>	B	図書館だよりは定期的に作成し、配布したが、貸出冊数の増加には繋がらなかった。	広報誌の発行回数を増やし、読書意欲を向上させ、更に興味を持ってもらうような紙面作りに努める。	B	読書はコミュニケーションの基礎や創造力を育む最良の方法。本を読みたくなるような紹介方法の工夫が必要。
	家庭・地域との連携	商業	地域に根ざした特色ある活動を推進し、商業高校の魅力化に向けた取り組みを地域と連携して実施する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域行事への積極的参加</li> <li>浜商デパート等の販売実習の充実</li> <li>課題研究の充実</li> <li>地元企業・行政との連携</li> </ul>	A	復活して5年目の浜商デパートを核にした取り組みで、生徒・保護者あるいは公民館や協力企業から非常に肯定的な評価をいただいていると考えている。	新学習指導要領を見据え、地域とともに魅力化に向けた活動を推進していきたい。	A	浜商デパートは市民に大きく存在感を示すものとなっている。もっとPTA、地域、公民館を巻き込むと浜商をアピールできるのではないかと。
	魅力の発信と生徒募集	総務 教務	保護者・地域への情報発信に努める	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページを適宜更新</li> <li>PTA会誌の充実を図る。</li> </ul>	B	各種行事の様子や部活動の大会結果を中心に情報提供したが、更新頻度が少ないという意見もある。	今年度内にホームページのリニューアル予定であり、今後いろいろな角度から情報発信に努めたい。	B	浜商デパートの充実、部活動の成果発表地域へ行き、楽しい学校であることを示すことも大切。
浜商の魅力が伝わる広報活動を行い、入学定員確保につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動交流など日頃からの交流と情報交換</li> <li>Webページによる情報発信</li> <li>「浜商トピックス」の作成・配布</li> </ul>	B	授業力向上および学力の定着のアピール、中学校への浜商トピックスの発信等、現中学生への広報が継続的な課題である。	定員割れの原因を調査し、説明会の回数を増やすなど情報発信の方法を検討し、積極的な生徒募集に取り組む。	HPの早期リニューアルを希望。中学生に浜商の魅力を感じさせるような発信が必要。				
安心・安全な学校生活	一人ひとりの人権への配慮	保健相談 生徒 学年会	生徒の人権が侵害されたり、進路実現が阻害されたりする要因を取り除く	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒意識調査を活用しての実態把握</li> <li>人権・同和教育LHRの充実</li> <li>差別に対する実践的態様の育成</li> <li>アンケートQUやいじめアンケートの活用</li> </ul>	B	教職員の共通理解のもと、互いの人権意識を育成し、「差別を見抜く、しない、させない」を考えることができた。人権・同和教育学習のLHRに対する情報提供をすることができた。意識調査や生徒・保護者からの訴えを確認し、すぐいじめ防止委員会を開いて対応した。	人権・同和教育学習のLHRの教材の研究、情報収集および人権・同和教育推進委員会の活性化に取り組む。これからのいじめは絶対許さない意識で、生徒の変化や気持ちを受け止めて対応したい。	B	人権が確保できる環境の維持に力を注いで欲しい。外部の第三者を委員に加えることも必要ではないか。いじめは傷害行為であるということを指導して欲しい。2025年問題が取り上げられており、知識だけでなく、高齢者と様々な場所で接して欲しい。
			いじめの早期発見・早期対応に取り組む	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の健康観察の実施</li> <li>保健だよりの発行</li> <li>スクールカウンセラーの活用</li> <li>生徒サポート委員会の充実</li> </ul>	A	健康観察は、クラスの状況把握に大変重要であり、かつ情報交換に役立っている。保健だよりも適宜発行されて注意喚起に役立っている。	今後も、健康観察や健康情報の発信により、疾病やけがの予防に努める。諸会議をさらに活性化し、要支援生徒の実態把握と支援策の構築を図る。	A	特に大きな事故や怪我もなく安心している。校舎の構造上、降雨時に通路が濡れることへの対応を速やかに対応してほしい。点検簿の作成・報告・確認を徹底して欲しい。
進路実現の支援	キャリア教育の推進	進路指導 商業	3年間を見通したキャリア教育全体計画を構築し、生徒一人一人の個性、適性、能力に応じた進路実現に向けて各学年部との連携を深める	<ul style="list-style-type: none"> <li>各学年部と連携し、3年間を見通したつながりのある計画へと導く</li> <li>検定の個別受験時の計画的な支援体制の確立</li> <li>高度資格取得への支援体制</li> </ul>	B	今年度は、各種講演会、ガイダンス等、各学年会のご協力によりスムーズに実施できた。検定は問題傾向の変化や一部高度化等の理由もあるものの、結果が低迷した。高度資格取得に向けた取り組みは現在行っており、来年以降に結果が出てくると思う。	さらに学年会ごとに連携を深め、キャリア教育全体計画の各学年重点目標に沿った3年間を見据えたキャリア教育を推進していきたい。検定については商業部および商業科で分析を密に行い、次年度につなげたい。	B	キャリア教育はとても重要で、改善策に従って早期に取り組むことが必要。キャリア教育と併せて主権者教育にも注力をお願いしたい。資格等の中には通信教育で取得できるものもあるので、個々でチャレンジできるように紹介してほしい。
			個に応じた進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>補習、各種模試、小論文指導、面接指導の効果的な実施</li> <li>ハローワーク、支援センター、行政機関、就労・進学先等との連携</li> </ul>	B	マナトレや補習等により、1・2年生では目標を持った生徒の成績が国語、数学、英語でかなり向上する結果が出た。しかし、一般常識テストに対する意識が低くなっており、それが得点に出ているように思われる。	基礎学力定着のための各種の小テストのあり方の見直しを行う。引き続き、生徒本人の志望、適性に合わせた進路決定ができるよう支援するという意識で進路指導を行っていきたい。	B	基礎学力はすべての基礎になるので、しっかりと継続して学力の底上げをお願いしたい。その上に進路指導が成り立つと思う。
	外部機関との連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校外部（行政・企業・上級学校）との連携を密にし、進路決定に必要な情報を的確に伝える。</li> </ul>	B	講演会、ガイダンスなどを通して、直接専門の講師の方々からタイムリーな情報を提供していただくことができた。	外部との連携をさらに強化し、生徒、保護者、担任が望む情報の収集と迅速な提供に努め、進路決定を支援する。	企業・大学・専門学校等と連携を密にし、きめ細かい指導で生徒たちが希望通りの進路となるようにして欲しい。			

評価基準 A(できている)=4. 0≧3.1 B(だいたいできている)=3. 0≧2.6 C(やや不十分である)=2. 5≧2.1 D(不十分である)=2. 0≧1.0 (4. 0満点中)